

あなたの周りの出来事や  
身近な話題をお待ちしています



## 日本に逃れてきた難民に偏見の厚い壁

人権講演会

カンボジアでポルポト政権時に両親と兄弟4人を失い、難民として来日された久郷ボンナレットさんによる人権講演会が、7月7日、町民会館で行われました。16歳で小学4年に編入。中学・高校まで働きながら勉学に励み、今では流暢な日本語で講演をするほどに。元難民ということから多くの差別を受け、心に深い傷を負いましたが、自分が受けた嫌なことは人にはしない、優しい気持ちを広げたいと熱く話していました。



## 筑前芦屋の新鮮な夏野菜をたっぷり

ふれあいクッキング

町の栄養士と一緒に作るふれあいクッキング。7月15日には、福岡県の郷土料理「がめ煮（筑前煮）」と宮崎県の郷土料理「冷汁」などをつくりました。がめ煮は、食物繊維の多い根野菜に、旬の野菜を加えたレシピにアレンジ。冷汁は食べる直前に氷を入れ、夏の食欲不振を払拭するのが狙いです。国府孝恵さん（山鹿）は「長年つくってきたがめ煮も、材料を少し変えると雰囲気が変わっておいしいですね」と話していました。

## 町に響く鐘や太鼓の音色が夏の到来を知らせます

夏の祭り・祇園山笠

7月16、17日の2日間、夏の風物詩である祇園山笠が町内を練り歩きました。

芦屋町には、芦屋地区の東部と西部、そして山鹿地区に1台ずつの山笠があり、親から子へ、子から孫へと受け継がれるとともに、地域の絆によって支えられてきた伝統行事で、山笠には鐘や太鼓の鳴り物で邪気を払い、岩や樹木の模型である飾り山に神様を呼び、無病息災や家内安全を願う気持ちが込められています。

昼間は子どもたちと一緒にゆっくりと曳かれる山笠ですが、数年前から芦屋地区の山笠は、夜になると電飾山笠に変身。勇ましい男衆とともに正門通り商店街を威勢よく駆け回り、観客を魅了していました。



## ご近所さんと力をあわせて、そ〜れっ！

町内ソフトバレーボール大会

6月19日、うだるような暑さの中、総合体育館で町内ソフトバレーボール大会が行われ、13地区、29チーム、170人が参加しました。この日のために毎週練習しているというチームや地区は違うけれどいつも練習に参加させてもらっているという人、今日やっと全員がそろったというチームなど、チームによってそれぞれでしたが、この日ばかりは各地区ごとに一致団結。一方では和気あいあいと、一方では白熱した戦いが繰り広げられました。



## いつまでもお元気で

100歳おめでとう

満100歳を迎えた田代ミチさん（正門町）に、波多野町長からお祝い状などが贈られました。田代さんは芦屋で生まれ、幼いころから山鹿の法輪寺近くにあった実家の精米所を手伝ったそうです。終戦後にお茶屋をはじめられ、85歳まで働かれたとのこと。昼間の仕事を終えた後、映画のナイトショーを見るのが好きで頻りに映画館に通ったそうです。長生きの秘訣を伺うと「特にないが肉が好き」と答えられました。



## 深い玉露、なじみの煎茶など味くらべ

福岡県の八女茶飲みくらべ

「福岡の八女茶」を広めようと、7月3日、八女伝統本玉露推進協議会の皆さんが、芦屋釜の里で八女茶の試飲や飲みくらべゲームを行いました。用意された茶の種類は煎茶・玉露・ほうじ茶・紅茶の4つですが、元の茶の木はすべて同じ種類とのこと。製法で色や風味が違っていると解説がありました。全部飲み当てた鈴木沙季さん（芦屋小学校5年）は「普段から飲みくらべをするくらいお茶が好きです」と笑顔をみせてくれました。



## 初節句を祝う芦屋の伝統を皆さんにも

八朔のわら馬づくり講習会

子どもの健やかな成長を願って、家族や近所の人と一緒にわら馬をつくって祝福する八朔の節句。このわら馬のつくり方を「だごびーなとわら馬の会」の皆さんが教えてくれる講習会が、6月26日、山鹿公民館で開かれました。はじめてわら馬をつくったという吉永双葉さん（芦屋小学校1年）は、「家にわら馬がたくさんあります。後になってわら馬の意味を知り、ぼくのお祝いの馬だとわかりました」と話していました。